

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173100304		
法人名	(有) ヘルパーステーション		
事業所名	(有) ヘルパーステーション		
所在地	埼玉県熊谷市野原135-6		
自己評価作成日	平成27年8月9日	評価結果市町村受理日	平成27年10月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成27年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな地域を活かしたログハウス風の造り。建物内もふんだんに木をしつらえあたたかい雰囲気の中で過ごして頂いて居ります。
廊下も間口も余裕を持って設計されています。介護面においては、お客様おひとりおひとりと向かい合い、要望に添える様支援しています。こまめにケア会議をひらき職員全員でお客さまへの支援を検討しています。事例発表・事例検討等勉強会も定期的に行い、ケアの向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者一人ひとりが、自由で生きがいを持った生活を続けて頂けるように、ADLの維持・回復を目指すと共に、家族の思いも受け止め、自宅での生活からの継続性を大事にすると共に、個々の状況に応じた支援がなされている。また、塀や垣根のない広大な苑と、あり余る広さの共用空間は、利用者にくつろぎと余裕をもたらしている。
・目標達成計画の達成状況については、毎月カンファレンスが行われ、全利用者の介護計画の作成が定着したことにより、目標が達成されている。また、災害時の地域協力については、地元消防団への協力要請を行うなど、目標達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の意思と人権を尊重し、一人ひとり明るく暮らせるようにその人に有ったホームづくりを目指す。	利用者に寄り添うと共に、自宅での生活からの継続性を大事にするために、家族の思いにも目が向けられた理念が作られ、掲示や会議により、職員間の振り返りと共有が行われ、支援の実践に繋がられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の周辺には人家がまばらで、地域貢献は実際問題難しいが、事業所としての交流には心がけている	事業所の苑内に自由に立ち入ることができ、バーベキュー大会を地域の方々と一緒に楽しめたり、高校生の職業体験の受け入れが行われている。また、健康祭りや介護相談を催し、地域とのかかわりを増やす検討がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の見学会を受け入れ、交流のなかで理解や支援の方法を理解して頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かした取り組みを心がけ、サービス向上を目指している	地域包括支援センターの参加を得、利用者と事業所の状況報告や、今年度の介護保険改正についての詳しい説明に加えて、地域や季節の話題や情報などを通じて、参加者とのコミュニケーションを深められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村と話し合う機会をもっているが、運営推進会議には日程の都合の理由で出席はされていない	市の担当者には、今年度の介護保険法改正についての質問など、必要に応じた問合せが行われ、適切な回答を得られている。また、地域包括支援センターが運営推進会議に参加され、協力関係の構築に取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が身体拘束について定期的に学び直し理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が興味を持てるレクリエーションを取り入れることにより、安全確保のための最低限の拘束も、最小限とし、身体拘束のないケアの実践に努められている。また、職員勉強会で、身体拘束についての学びを深められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体が虐待について定期的に学び直し理解して虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び職員は権利擁護に関する制度について学び、それを活用できるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に説明し納得して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時、お客様からの意見や、要望を受け入れられる体制が整っていて、その意見は会社全体で検討に運営に活かしている。	利用者とは日常の関わりの中で、家族からは、来訪時や変化があった時の連絡を利用して、意見や要望が聴き取られ、汲み取られた意見や要望は、検討を経て、個々の利用者へのサービス提供に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員参加の会議を定期的にもうけている。	毎月の定例会には、リーダーが職員の意見や要望をまとめて参加することで、上司へ上げられている。また、それらの意見や要望に対する答えは、リーダーを通じてフィードバックされると共に、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に従業員の給与水準、労働時間、やりがい等、環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対し研修支援を行い、研修したことを報告し、事例発表を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所に訪問した時には、情報交換を行い、外部の意見をケアに活かせるよう努めている。現状はネットワーク作り等には発展していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	納得されるまで話をお聞きして、要望を確認しながら、本人との関係を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	納得されるまで話をお聞きして、要望を確認しながら、ご家族との関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度サービス内容の確認を行い、継続して必要な支援の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にお客様と馴染の関係を築くことを念頭に入れて対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の様子を報告し意見等を伺いながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様との外出の機会を支援している。	家族の協力を得て、行きつけの美容院や外食へ行っていただく機会を提供するなど、入居前からの生活習慣に基づいた、馴染みの人や場所との関係継続に、努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がそれぞれのお客様の橋渡しをしたり、共通の話題を提供してかわりを持ちながら支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に意向を必ず確認している。	1人ひとりの利用者に寄り添い、声かけへの反応や変化を捉えて、思いを汲み取られている。また、意思疎通の困難な利用者には、家族からの情報を基に、生活歴などから、本人本位に検討が行われている。	利用者との関わる時間をふやすことで、利用者自身が楽しく、参加に興味を持っていただけることを見つけて、実施されることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や本人にお聞きして把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一同心がけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族様の意見・要望を反映して介護計画を作成している。	管理者・ケアマネジャー・利用者担当を中心にモニタリングを行い、それを基に、毎月のカンファレンスが定着し、家族・協力医などの意見も求め、現状に即した介護計画が作成され、変化に応じて、臨機応変に見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は毎日行っている。職員間で情報を共有は出来ている。見直し等や状況把握のためのカンファレンスは概ね2週間から1ヶ月に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人その人のニーズに対応し、多様化に日々取り組んでいる。喫茶室を利用したり、季節の果物などを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、利用し豊かに生活出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様要望をもとに通院又は往診を行っている。協力医による往診は月2回。	利用者と家族に、協力医療機関を含め希望の医療機関を選択していただき、専門医の受診は家族の協力でされているが、車いす利用者や緊急時は職員による送迎が行われ、適切な医療が受けられる支援がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に異常の早期発見と早期対応ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携はとれている。情報交換や、相談についても、必要に応じて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、終末期の有り方や施設対応について説明して話し合っている。	入居時に、利用者と家族に重度化した場合に事業所の出来る事の説明が行われている。状況の変化が生じた場合は、家族の意向を尊重して話し合いを重ね、協力医の協力も得て、事業所でできるギリギリの支援を視野に入れて、対応がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等の対応は定期的な研修を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行っている。消防署職員に指導を受ける機会が有る。	消防署の協力を得て、夜間想定を含めた避難訓練が、併設の事業所と合同で年2回行われており、備蓄も完備されている。また、地域の消防団への協力要請を通じて、地域との協力体制作りにも努められている。	災害発生時は職員だけの対応には限界があると想定されます。地域の協力を得るための働きかけの継続を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重やプライバシー保護には職員一同が配慮している。	社内勉強会を中心とした職員研修が継続的に行われ、1人ひとりの意向を尊重することで、利用者の尊厳を守ると共に、プライバシーの確保に配慮した支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からお客様とコミュニケーションを取り、自由に思いを発して頂ける様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや、施設の規則等を優先する前に本人の希望に添えるかを検討し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を活かせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事と言う行為を通して楽しみ、または励みに思えるような支援を心がけている。	給食委員会では、利用者の希望をより請け易いように、厨房委託業者の見直しも行われている。また、好きなものを選べるおやつパイクングが行われるなど、利用者に喜ばれる支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取、水分摂取など、一人ひとりが健康に過ごせるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援をしている。本人の能力をも考慮しはじめはおひとりでやっていたが、仕上げ用は職員により清潔を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常にその人の残存能力の把握とその中で可能な限り自立へ向けての支援につながる様な支援している。	排泄パターンを把握し、仕草にも気を配るなど、トイレ排泄をしていただくために、1人ひとりに最適な対応が行われている。また、退院後の自立支援により、オムツ使用からトイレ排泄が出来るように改善した例も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や運動へ向けての支援に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は聞かれているが、その日以外にも対応できるよう心掛けている。	週2回の入浴日が決められているが、振替対応などで利用者の希望を叶えるようにされている。また、ひばの木の浴槽の使用や個浴とグループ浴の選択が出来るなど、癒し効果を持たせた入浴の支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や体調に応じて安心して眠れるような支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	対応する職員は必ず、薬についての理解を深められるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の生活習慣を理解し、張り合いや楽しみを持って頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お客様や、家族の希望に添える様な外出ができるよう心掛けている。	広大な敷地は、苑内での安心な散歩、外気浴の場や喫茶などがあり癒しをもたらしている。また、家族の協力を得て、祭りや花見、外食など、1人ひとりの利用者に合わせた、外出の支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自立しているお客様については、必要時にお金を所持して、外出等行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの手紙の受け渡しや、電話の取次ぎは常時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常時、お客様が快適に過ごせるよう配慮している。	採光や室温に配慮され、車いす同士が楽々すれ違える広さを持つ共用空間では、利用者が個々のペースで余裕を持って寛がれている。また、清掃専門業者により、朝夕の清掃が行われ、居室共々、清潔に維持されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングで、思い思いに過ごせるようソファーなどを移動し一人だったり、気の合う同士だったり快適に過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自身の居室内も、共有スペース同様常時、お客様が快適に過ごせるよう配慮している。	プライバシーと安全の双方の確保に配慮された各居室には、馴染みの身の回り品や思い出の品や写真などが置かれ、寝具も含めて入居前からの生活習慣に合せた工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	資せ鬱のつくりが、自立を促すと同時に安全に行えるよう見守りしやすい構造になっている。		

(別紙4(2))

事業所名(有) ヘルパーステーション

H27年 10月 22日



目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	・火災以外の災害にも対応できる訓練の実施。 ・災害発生時の地域の協力を借りた体制が必要。	火災やその他の災害時の対応。 地域との協力体制を継続。	・地域消防団への働きかけ。 ・消防署指導による火災訓練、避難訓練の継続	12ヶ月
2	2	ご家族に早い段階に終末期の方向性を確認しても いざという時に、その判断が変わってしまう。 病院でかわるなら仕方ないが、施設で変わってしまったら、 取り返しのつかない結果となってしまう。	定期的に判断を求めていくか、状態が、下降した時にもう一度確認して、コミュニケーションを密にとっていく。	・日頃の家族の要望を確認する ・状態が悪くなったころ、状態の報告と共に、もう一度終末の方針を確認する	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。